



三菱電機パッケージエアコン別売部品 ドレンアップメカ据付工事説明書
 形名 PAC-SH94DM [壁掛けKタイプ]

- このドレンアップメカは、室内ユニット左側の壁面に据付けて使用します。
- ドレンアップメカの据付けにより、ドレン配管・冷媒配管ともに上側からの取出しができます。
- ドレンアップメカの据付けは、室内ユニットの据付（位置決め）後に行ってください。
- ※ 据付け前に本説明書と室内ユニットの据付工事説明書をよくお読みください。

安全のために必ず守ること

- 据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。



警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。



注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

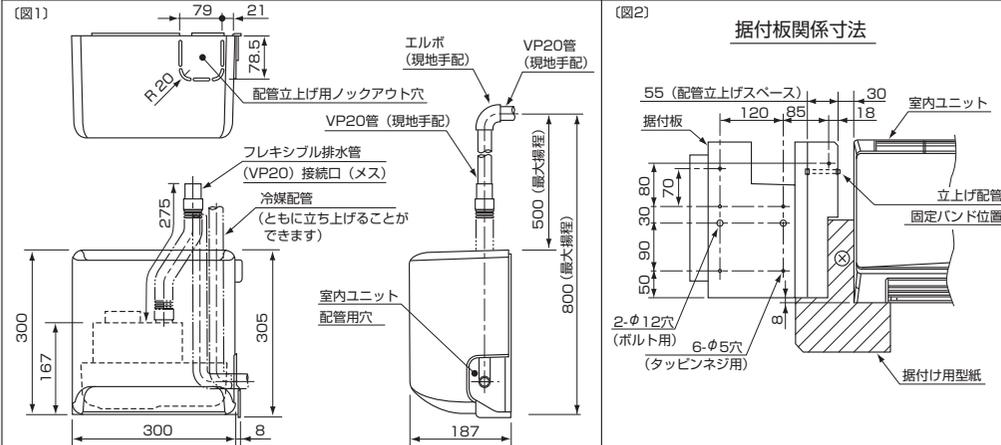
- 据付け完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法、お手入れの仕方等を説明し、本書をお渡しください。
- この据付工事説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管していただくように依頼してください。
- また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくように依頼してください。

1. 付属部品のご確認（下記部品が付属されておりますので、据付け前にご確認ください）

① ドレンアップメカ	② ネジ (M4×16)×1 (M4×35)×6	③ ドレンホース	④ ドレンホースカバー	⑤ ホースバンド	⑥ バンド	⑦ 据付け用型紙	⑧ 配線名板
------------	--------------------------------	----------	-------------	----------	-------	----------	--------

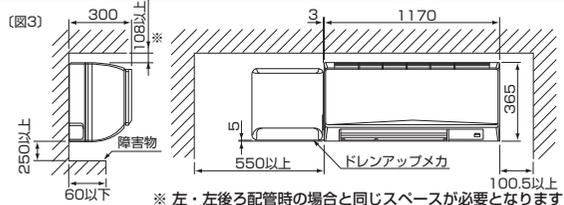
※ ②～⑥はドレンアップメカの化粧カバーと本体の間に同梱されています。化粧カバーを取外してから取出してください。

2. 外形寸法、周囲必要空間（単位mm）



ドレンアップメカの周囲に必要な空間
[メンテナンススペース]

※ 天井に廻り線がある場合は、その寸法を考慮して据付けてください。

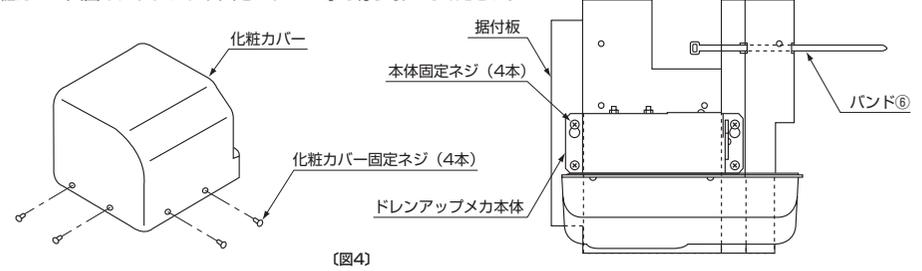


※ 左・左後ろ配管時の場合と同じスペースが必要となります。

3. ドレンアップメカを据付ける前に（※始めに室内ユニット位置決めを行ってください）

3-1 ドレンアップメカの準備

- 化粧カバーとドレンアップメカ本体の背面に固定されている据付板を、それぞれ取外してください。
 ※ 化粧カバーと本体との間にセットされている梱包材は輸送用です。
 据付け時には不要となりますので取外してください。
 ※ 付属品を取出してください。
- 据付板の角穴に付属のバンド⑥を通してください。
- 化粧カバー天面のノックアウト穴をニッパー等で切り取ってください。

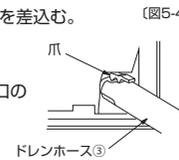
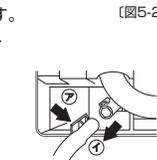
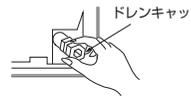


〔図4〕

※ 取外したネジは使用します。紛失しないようにしてください。

3-2 室内ユニットの準備、据付け（※室内ユニット据付工事説明書の配管接続準備の項目を参照してください）

- 室内ユニット左側面の左配管用ノックアウト穴を開けます。
- 左側排水口のドレンキャップを抜きとる。
 ● 先端の凸部をつまんで抜きとってください。
- 室内ユニットのドレンホースを取外す。
 ● ドレンホース根元②（矢印部）を掴み手前④の方向に引き抜いてください。
- 右側排水口にドレンキャップを差込む。
 ● 先端穴にドライバー等を差込み、ドレンキャップ根元まで確実に押込んでください。
- 左側排水口に付属のドレンホース③を差込む。
 ● ドレンホースをドレンパン接続口の根元まで押込んでください。
 ※ ドレンホースの爪がドレンパン接続口の凸部に、確実に掛かっていることを確認してください。

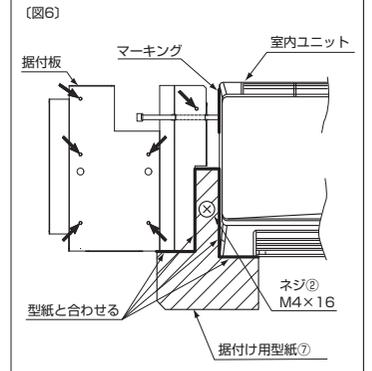


注意 室内ユニットは必ず水平に据付けること。
 ● 水漏れを起こし、壁面等を汚す原因になります。

4. ドレンアップメカの据付け

4-1 据付板の固定

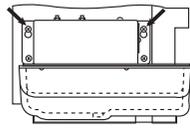
- 据付け場所は十分検討し、強度上危険と思われる場合、板あるいは桁等で補強して据付け作業を行ってください。
- (1) 付属の据付け用型紙⑦を利用して、据付板の位置を決めます。
 (※ 室内ユニット左端の位置をあらかじめマーキングしておいてください)
 1) 右図のように室内ユニットの左端に合わせて、据付け用型紙をあてがいながら付属のネジ②（M4×16）で型紙を壁に固定してください。
 2) 固定した型紙に合わせて、据付板の取付け位置を決定してください。
- (2) タッピングネジは付属のネジ②（M4×35）を使用し、据付板のφ5穴に固定してください。（図6の矢印、6ヶ所）
 据付板を固定ボルト（通しボルト、ボルトアンカー、ナットアンカー）にて固定する場合はM10またはW3/8ネジを現地手配して、据付板のφ12穴に固定してください。（2ヶ所）
- (3) 据付板の固定が終了しましたら、型紙は取外してください。
- (4) 据付板の水平および室内ユニットとの位置関係を確認してください。（図2参照）



4-2 ドレンアップメカ本体の取付け

- ドレンアップメカ本体を据付板に固定します。
- (1) 据付板の本体取付け用穴の内、上側の2ヶ所(図7の矢印)に取付けネジを約半分まで仮締めし、本体をネジに引っ掛け仮固定します。
- (2) 水準器を使用して本体の水平を確認した後、4ヶ所ともネジを本締めして本体を固定します。

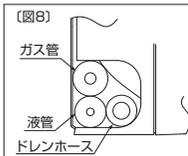
注意 ドレンアップメカは必ず水平に据付けること。
● 水漏れ等を起こし、壁面を汚す原因になります。



〔図7〕

5. 冷媒配管工事 (※室内ユニット据付工事説明書の冷媒配管接続の項目を参照してください)

- (1) 左配管の工事要領で配管工事を行ってください。
- (2) 冷媒配管とドレン配管をまとめて立上げする場合、据付板の配管立上げスペース内に収まるように施工してください。
 - 配管工事時、室内ユニットが4-1でマーキングした位置からずれないようにしてください。
 - 冷媒配管の曲げRはR80以下にて施工してください。
 - 立上げる配管は据付板の角穴に通したバンドで固定してください。
- (3) 冷媒配管を室内ユニットの左配管スペースに図8のように配置、まとめてください。

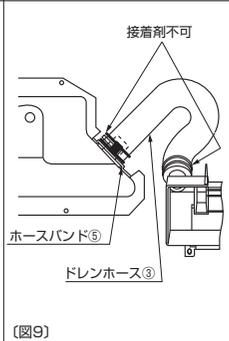


〔図8〕

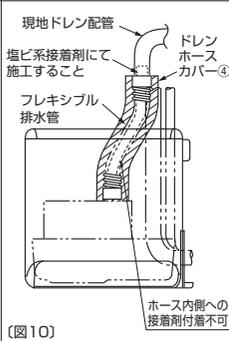
6. ドレン配管工事

6-1 ドレンホースの接続

- ※接着剤は図に指示した接続部だけに塗布してください。指示以外の接続部への接着剤の使用、フレキシブル排水管またはドレンホースのホース内側に接着剤が付着した場合、ホース破裂などによる水漏れの原因となります。
- (1) ドレンアップメカ本体のドレン接続口に室内ユニット左側の排水口に取付けたドレンホース③を接続します。〔図9〕
 - ※ ドレンホース③の接続部には接着剤を使用しないでください。
 - (2) 付属のホースバンド⑤を使用して、接続口を確実に固定します。〔図9〕
 - ※ ホースバンド⑤は電動ドライバーなどで締めすぎないでください。接続部が破損するおそれがあります。
 - (3) 現地ドレン配管とドレンアップメカ本体天面のフレキシブル排水管を接続してください。接続部は必ず塩ビ系接着剤にて水漏れのないように施工してください。〔図10〕
 - (4) 付属のドレンホースカバー④を使用して、ドレンアップメカ天面のフレキシブル排水管を断熱してください。〔図10〕



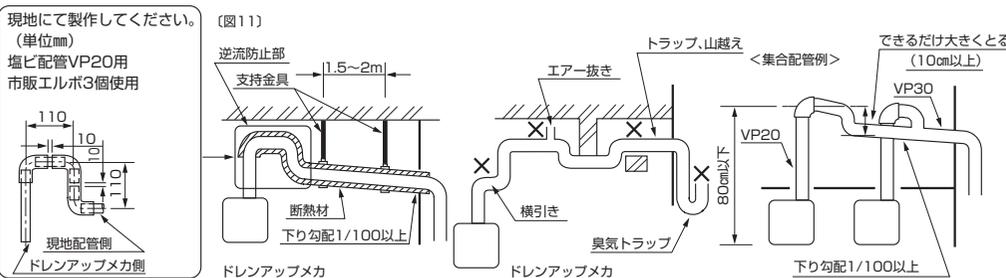
〔図9〕



〔図10〕

6-2 ドレン配管工事

- (1) ドレン配管工事は以下の項目に従って作業してください。
 - ドレン配管は室外側(排水側)が下り勾配(1/100以上)となるようにし、途中でトラップや山越えを作らないようにしてください。
 - ドレン配管の横引き長さは20m以下にしてください。また、途中で支持金具を設けてドレンアップメカ配管の根元に過度の荷重が加わらないようにするとともにドレン配管の波打ちをなくしてください。エアー抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出ます。
 - ドレン配管は硬質塩ビパイプVP20(外形φ26)を使用し、接続部は必ず塩ビ系接着剤にて水漏れのないように施工してください。
 - ドレン配管には必ず市販の断熱材(発泡ポリエチレン：比重0.03、肉厚10mm以上)を巻いて断熱してください。
 - ドレン配管の排水出口部に臭気トラップを設けなさい。
 - ドレン配管の出口部は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
 - 集合配管の場合、下図のように本体のドレン出口部より約10cm程度低い位置に集合配管(幹排水管)がくるようにし、かつ集合配管はVP30程度のもので下り勾配(1/100以上)となるよう施工してください。
 - ドレン配管の出口高さ(ポンプ揚程)はドレンアップメカ下面より80cmですが、立上げ管の途中で横引き管がある場合、運転停止時におけるドレンの逆流が多くドレンパンからオーバーフローしますので、ドレン配管は必ずまっすぐ、垂直に立上げてください。また、最高部に図11のような逆流防止部を設け、横引き配管からの逆流を防いでください。



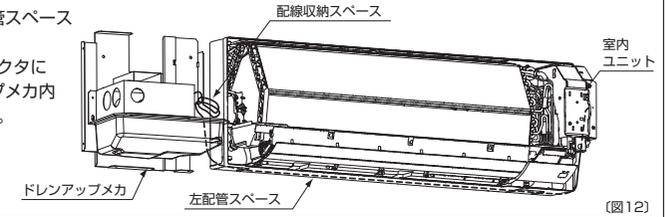
7. 電気配線工事

7-1 室内ユニットの準備 (※電源がOFFであることを確認してから作業してください)

- (1) 室内ユニットのパネル、電気品箱のカバーを外します。(※室内ユニット据付工事説明書の室内ユニット設置の項目を参照してください)

7-2 配線取廻し

- 配線は図12のように室内ユニット左配管スペースを通し、電気品箱まで取廻してください。
- リード線を室内ユニットの制御基板コネクタに接続後、リード線のあまりをドレンアップメカ内の配線収納スペースに収納してください。(クランプ固定)

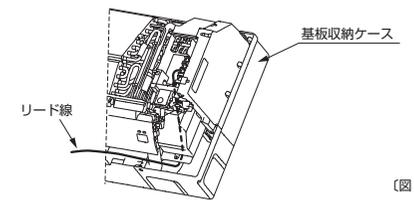


〔図12〕

7-3 配線工事

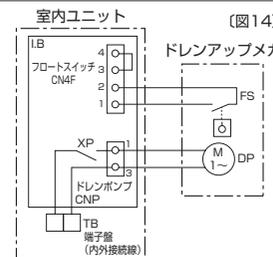
- 制御基板のコネクタ"CNP"/"CN4F"とリード線が接続出来る位置まで基板収納ケースを引き出してください。
- 接続コネクタ付のリード線は制御基板のコネクタ"CNP"/"CN4F"にそれぞれ接続します。このとき、制御基板のCN4F端子には短絡コネクタ(不要になります)が装着されていますので、これを外してください。
- 制御基板上に発熱体(ヒートシンク)がありますのでリード線が触れないように注意してください。

配線の取廻し(電気品箱付近)



〔図13〕

電気配線図

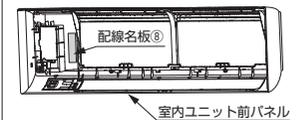


記号	名称	記号	名称
TB	端子盤 (内外接続線)	DP	ドレンポンプ
I.B	室内制御基板	FS	フロートスイッチ
CNP	コネクタ (ドレンポンプ)	XP	リレー (ドレンアップメカ)
CN4F	コネクタ (フロートスイッチ)		

注、□は端子盤接続、○はコネクタ接続を示す。

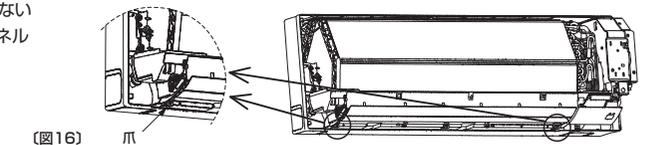
配線名板貼り付け位置

- 室内ユニットの前パネル裏側に配線名板⑧を貼り付けてください。



〔図15〕

- 配線工事が終了しましたら、爪が外れていないことを確認した後、電気品箱のカバー、パネルをもとどおりに取付けてください。



〔図16〕

8. 試運転

- ★ ドレンアップメカの据付け完了後、試運転により排水が確実に行われていること、各接続部からの水漏れのないことを確認してください。

- (1) 注水
 - 室内ユニットのドレンパンに約800cc注水してください。(※室内ユニット据付工事説明書のドレン配管(排水の確認)の項目を参照してください)
 - (※注入する水量が多過ぎるとドレンオーバーフロー保護動作による異常停止により排水できない場合があります)
- (2) 試運転
 - 室内ユニット据付工事説明書の試運転の項目に従って、冷房運転を行い、排水ならびに漏水のないことを確認してください。
 - ※暖房シーズン中にドレンアップメカを据付けた場合、ドレン抜きを行ってください。
 - ドレン抜きは、本体底部ドレンプラグを外せば行えます。このときドレンの受皿をご用意ください。
 - ドレン抜きが完了しましたらドレンプラグをもとどおりにはめ込んでください。
- (3) 確認後、化粧カバーをもとどおりに取付けてください。
 - ※4-1で付けたマーキング位置と室内ユニットの左側部が合致しているか確認してください。(化粧カバーが取付かない、もしくは化粧カバーと室内ユニットとの間に隙間が生じます)